

【別添2】(様式例2)

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣南高等学校 学校番号 22

I 自己評価

1 学校教育目標	「文・武・芸」の三道三立 自ら学び、自ら考え、自ら主体的に行動できる「生きる力」の育成をめざして、人間性豊かな人格の形成に努める。
----------	--

学習指導について

2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全員が進学を希望しており、価値観は一元化している。 ・生徒は素直で真面目で、落ち着いた雰囲気の中で学習をしており、学校の取り組みに対して好意的である。 ・主体的に考えたり、積極的に行動することを苦手とする生徒が多い。 ・家庭学習時間を確保できない生徒が少なからずいる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇社会状況の変化や生徒の実態の変化に対応した授業方法(ICTを活用した授業、習熟度別授業)の在り方について研究を深め、生徒が主体的に考えたり積極的に行動する場面を取り入れた授業を全職員が意識して展開できるようにする。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務学習係・教科主任を核とし、年間を通じて公開授業・研究授業を計画実施していく。 ・ICT活用推進リーダー、校内研修推進リーダーを中心にICT活用の有効性を伝える組織を編成する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業改善の必要性を全職員に浸透 (2) ICT環境の充実とICTの有効活用への全職員への浸透	(1) 生徒の主体性の向上 (2) 授業に対する満足度および学力の向上	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・年1回の研究授業・研究会と年2回の公開授業週間の実施 ・推進リーダーによるICT機器研修会の実施 ・オンライン学習支援、全校集会、ふるさと探究学習、高校見学会へのWeb会議システムの導入 ・授業へのICT活用 	① 職員の取組み状況 ② 生徒の主体性の向上 ③ 学力の向上および授業に対する満足度	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○職員間に「基礎学力の定着を図る授業」「ICTを有効活用した授業」の意識が醸成し、生徒が主体的に取り組む授業を実践できるようになってきた。 ○Web会議システムをいろいろな場面で活用することにより職員がICT機器を身近なものとして捉え、活用することができるようになった。 ▲授業改善、ICT等の環境整備を通して、生徒の主体性を向上させるための土台は構築されつつあるが、まだ生徒は受動的である。	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業、公開授業週間における授業参観はもとより、普段から授業を参観できる雰囲気を職員全体に広め、参観を通して生徒が主体的・積極的に活動する場面を認識し授業改善に生かすようにする。 ・ICT機器については、1月中に一人一台タブレットも納入され、学校を取り巻く環境が大きく変化している。推進リーダーを中心に、学習活動の中でデジタル教材やアプリケーションが手軽に多くの先生に使用してもらえるように研修会を開いていく。 		

II 学校関係者評価 (コロナ対応等を含む) 実施年月日: 令和3年2月1日

【意見・要望・評価等】

- ・コロナ禍のたいへんな状況のなか、ICTを活用したフォローをよくしていただいたと理解しています。
- ・感染症対策の努力が思っていた以上に、室内換気など徹底されていると感じました。
- ・WEB会議システムやタブレットの導入により、コロナ禍に於いても生徒のことを第一に考えた学習を取り入れられたこと、またそれによって大幅な学習の遅れ等もなく進めていただいたことが素晴らしいと

思います。本校を志望する中学生の増加もうれしく思います。
 ・コロナ収束の目処がまだ立たない中、関係者の皆様の御苦勞やご努力に心より感謝申し上げます。生徒たちが安心していただけるのは皆様のフォローのたまものと思いますが、先生、職員の皆さま方もどうぞ心身のご負担をためすぎないようにWEB会議等を通じて互いに協力し合える方法をご活用いただきたいです。
 ・タブレットが一人一台利用できる環境が整えば、デジタル教材の活用は学力を伸ばすのに有効な手段だと思います。生徒が積極的に活用するよう学校側から働きかけがあると良いと思います。
 ・導入されたタブレットが授業で活用され、学びへの効果として現れることを期待しています。タブレットを使用した授業の見学が出来るとうれしいです。
 ・大変なご努力であったろうと、授業時間数の確保を評価したいと思います。
 ・別紙のアンケートにより、ホームページやメールが活用されていることが分かります。今後も家庭や生徒の連絡方法として活用されることを期待します。
 ・コロナ禍における衛生管理についてですが、2名の方で、生徒が手を触れる場所の消毒をしていますが、人数は適正でしょうか。適切な作業量が徹底した感染防止対策につながるのだと思います。
 ※先生方の日々のご努力に敬服いたしております。どうかご健康にはお気をつけください。
 ・Web会議システム9回線保有とは、当初の1回線からするとありがたいです。今後の活用として、不登校生徒のためにオンラインを活用するなど検討していただけたら幸いです。
 ・新型コロナウイルス感染症対策と学校生活の環境整備等、引き続きよろしくお祈りいたします。

生徒指導について

2	評価する領域・分野	◇生徒指導				
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導における、自転車・歩行者の交通マナー。 高校生としてのふさわしい服装や頭髪指導の徹底。96.1%→95%→92.7% 教育相談における、個々の生徒への適切な指導。85.7%→84.4%→79% いじめや差別に対する厳しい対応。80.4%→84.2%→79.5% 				
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自転車・歩行者の交通安全や危機管理意識の向上。 ◇社会の一員としてのマナー遵守への意識向上。 ◇教育相談を中心とした、個々の生徒に応じた適切な支援への連携。				
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 職員が一致協力して取り組める体制を確立していく。 教育相談と関係外部機関、生徒指導の連携を図る。 				
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標			
	(1) 様々な交通安全啓発活動を通して生徒自身の交通マナーに対する意識の向上。 (2) 身なり・マナー指導の継続実施。 (3) 放送等によるタイムリーな指導の実施。 (4) 十分な生徒理解による適切な支援の実施。		(1) 交通安全啓発活動が計画どおり実施できた。 (2) 身なり、マナー指導を計画どおり推進できた。 (3) 迅速な対応による、早期対応ができた。 (4) アンケート調査の結果より細かな指導ができた			
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点	10	評価	
	<ul style="list-style-type: none"> 安全指導（登校時の交差点指導、校門指導）（月2回の登校指導） 身なり・マナー指導（薬物乱用防止講話）（定期的に身なり指導を行った） 生徒理解・人権教育（各学年ごとで映画鑑賞） 		<ul style="list-style-type: none"> 交通事故を減らすことができたか。 身だしなみやマナーが向上したか。 生徒理解を深め、適切に支援することができたか。人権意識を高めることができたか。 		A (B) C D (A) B C D (A) B C D	
11	成果・課題	▲大きな交通事故は、なかったものの、交通事故発生件数が0ゼロにならなかった。MSリーダーズや生徒会の働きかけで、全体的に交通安全に関する意識が高まり、交通ルール違反者は減少した。 ▲うっかり遅刻する者が多かった。 ▲昼休みや休み時間にうっかりスマホを使用し、指導される生徒が増加した。 ○身だしなみは落ち着いており、安定した学校生活を送ることができた。 ○教員間の生徒情報の共有ができ、素早い適切な対応ができた。 ○コロナ渦の中、落ち着いて学校生活を送ることができた。			総合評価	(A) B C D
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> スマホの依存使用や登下校中のながらスマホをなくす。 				

- ・引き続き来年度も校則の見直しを検討していきたい。
- ・教育相談研修会の実施。
- ・身なり指導の実施回数を減らす。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月1日

- ・自転車での登下校の際、道一杯に広がって進む姿を見かけたので指導してください。
- ・リモートでの学習に不足しがちな学友とのコミュニケーション不足が心配
- ・アンケートについて生徒さんのアンケートで回答の数値に動きがあり、真剣にご回答されていると好感がもてました。例えば、13番がもっとも「わからない」とする回答が多いのですが、これは先生方の働き方改革に関する間で実際にわからなかったろうと推察されます。わからないことはわからないと回答しているのは良いことでしょう。他方、生徒会活動、ボランティア活動の評価はやや低い評価になっているように思われます。
- ・コロナ対策で時に厳しい環境下での学習にも生徒がしっかりと対応できたことがすばらしいです。心のアンケートやスクールカウンセラーによるケアがしっかりされていることを知り、安心しました。多くの行事や大事な試合などが中止になり楽しみにしていた生徒たちの気持ちを思うと居たたまれませんが、そのなかでもできる限りの対応をしていただいた先生方に感謝いたします。
- ・世界的な取り組みの一つであるSDGsの中でも人権は重要課題として取り上げられています。貴校でも人権に関する教育が行われていますが、今後も生徒が人権に関して考える機会を増やすことで多様性を受け入れることのできる人間に成長できると感じました。
- ・身分証明書に、「交通事故時の対応」をのせたことが効果的であったとのこと、気が動転している生徒にとってありがたいことだったと思います。このような「見える化」を他の所でもお願いしたいです。
- ・夏期のトレーニングウェアで通学可としたような柔軟な対応はよいことだと思いました。心のアンケートと共に困り感のある生徒への対応も丁寧をお願いします。

進路指導について

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・平日補習、土曜補習、土曜開放等の進路目標達成のための支援・援助に関する項目では生徒も保護者も9割を超える高評価であった。 ・進路情報の提供に関する項目では、8割程度であったので、やや提供する機会が足りていない感がある。 ・各学年とも7割近い生徒が国公立大学への進学を希望している。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇3年間を見通した進路指導計画に基づき、各学年の到達目標達成のために、各学年会との連携を強め、組織的な進路指導体制を確立する。また、大学入試改革等への対応を意識した計画、体制を研究する。 ◇受験指導体制をより充実させるために、職員の進路指導研修や大学研究、入試問題研究等の自己啓発活動の充実を図る。 ◇生徒が、自己の生き方を長期的な視野で主体的に考えることができるよう、総合的な学習（探究）の時間等を通してキャリア教育を推進し、望ましい道徳観・勤労観を育成する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路実現に向けて、各学年会と協議し、実状把握に努める。 ・外部講師の活用による進路意識の喚起、高揚につながる企画を計画・運営する。 ・時機にあった進路情報の提供と教員向けの研修の呼びかけを行う。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路指導計画に沿った進路講話や保護者進路研修会等を充実させる (2) 各学年と協力し、学力分析や学力伸長に向けた企画を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路講話後の生徒の様子や保護者進路研修会後のアンケート結果 (2) 外部模試の結果分析と情報共有、各学年、各教科の取組状況 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・保護者進路研修会を3年は7月に、2年と1年は	①保護者に対して時機にあった	



<p>1 1月に実施。(7月はオンラインで、11月は校内で実施し、各学年、親子で同じ講演を聞いた)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生に向けて、河合塾講師による学習についての講座や小論文特別講座を実施。 ・外部模試実施後に毎回結果分析をし、職員会議で情報を共有し、各教科で学力伸長に努めた。 	<p>進路情報の提供ができた(アンケート結果)</p> <p>②講座受講後の生徒の反応</p> <p>③外部模試結果による学力伸長の度合い</p>	<p>A B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>11 成果 課題</p>	<p>○保護者進路研修会では、親子で同じ講演を聞くことで、各家庭で進路についての話合いの契機となった。また、各学年に合った進路情報を提供することができた。</p> <p>○外部講師の特別講座は、生徒のやる気を引き起こし、その後の学習に反映することができた。</p> <p>▲入試改革1年目ということで、さらにコロナ禍で、例年行っている進路指導ができず、総合型選抜や学校推薦型選抜において後手に回ることがあり、十分な準備ができなかった。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者進路研修会の回数を年2回に増やし、時機にあった情報提供と各家庭との連携を密にできるように努める。 ・総合型・学校推薦型選抜に対して職員研修を実施したり、情報共有したりして、進路指導体制の強化を図る。 ・外部講師の特別講座は、生徒のやる気を大いに喚起するので、継続して実施していく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月1日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学校として生徒の進路希望を汲み取り、希望する進路に進めるよう更に指導されるように願います。 ・遠方の国公立大学志願者が減ったとのこと、コロナ禍においては致し方ないと思いますが、大学進学を機に自身の目で地元を外から見る機会も減るのかと思うと心配です。そのような中、ふるさと教育として生徒たちに地域の現状や今後を考える事業を行っていただいたことはとても意義深いと感じます。 ・大学に入るのが目的ではなく何のために大学に行くのかが明確になると良いと思います。その為には、現在外部講師の授業含め、自身のキャリア形成に関して考える機会を今後も継続されると良いと思います。 ・来年度より学習支援ソフトを切り替えるとのこと、こういうものを利用する費用は育友会(保護者)が負担するのでしょうか。成果につながるよう期待します。 ・親子で同じ講演を聞く研修会がありましたが、これをきっかけに親子の話し合いが出来ると思うので今後も継続するべきだと思いました。進路が決まれば自主性も自ずと出てくると思います。 ・自主性はやる気とも関係します。土曜日の学習支援や外部講師の特別講座は今後も続けてほしいと思いました。 ・スタディサプリの導入をいち早く実行できたことは評価できると思います。次のクラッシーについても、変化していく生徒の学習状態の中で選択できることもすばらしいと思います。
--